

いまこそ、古代!



2024年は大河ドラマ『光る君へ』が放送され、平安時代への興味も高まる年ではないでしょうか。

戦国時代や江戸時代に比べると、物語の舞台としてはやや馴染みの薄い古代（大和時代から平安時代）ですが、古代あるいは古代風の世界観で描かれた物語は新鮮で面白いものがたくさんあります。

今回はそんな古代を舞台にした物語と、その時代の文化や人物がわかるような本をリストでご紹介します。

古の昔にタイムスリップできるお話を、どうぞご堪能あれ!

多摩市立図書館は
電子図書も貸し出し
しています!



多摩市に在住・在学・在勤の方は、電子図書も借りることが出来ます。
電子雑誌が読めるコンテンツや、クラシック中心に音楽を聴けるコンテンツもあるので多摩市立図書館HPの電子図書館を、ぜひ、一度、見てみてくださいね。



『千に染める古の色』

久保田香里／著 アリス館 Y91クホ



人々から「かぐや姫」と呼ばれる右大臣の娘、千古。

いわゆる超一流の貴族の姫君である千古は、己の立場を理解しつつも、心の中に育つ感性や好奇心を抑えきれずに生活している。

そんな千古が裳着を前に外出を禁止され退屈を持て余す中で、かさねの色目で遊んだことをきっかけに布を染めることに興味を持つが…。

姫君の淡い恋や成長を、美しい色と共に描く1冊。

『六四五年への過去わたり』

平城の氷と飛鳥の炎』

牧野礼／著 くもん出版 91マキ



両親を亡くし、平城京の片隅で生きていた沙々はたった一人の姉がさらわれたことをきっかけに、陰陽寮の星読みの青年、言祝に拾われ、乙巳の変の日に失われた書物を、過去わたり（タイムスリップ）して手に入れるという役目に挑むことになる。

失敗すれば歴史の中に溶けて消えてしまうという任務を沙々と言祝は成功させることが出来るのか。

古代を舞台にしたタイムスリップ冒険譚。

ティーンズブックリスト

古代万華鏡



多摩市立東寺方図書館
2024.2.28

『日本人なら知っておきたい日本文学』

蛇蔵・海野風子／著 幻冬舎 910.2

『枕草子』『更科日記』などなど、古典の授業で読んだ物語はどんな人が書いたか想像したことはありますか？

この本では作者のエピソードを交えて、有名な古典文学をマンガと解説で紹介します。



『空色勾玉』 荻原規子／著 徳間書店 YF1オキ

神と人がまじりあう世界、豊葦原で闇の一族の巫女姫である狭也は、光の王子に憧れる。しかし村を出て光の宮へ行った狭也が出会ったのは、宮の地下に封じ込められていた「風の若子」稚羽矢だった。

勾玉シリーズとして今も人気を博す古代ファンタジーの幕開けのお話。



『月の森に、カミよ眠れ』

上橋菜穂子／著 偕成社 91ウエ

蛇神のタヤタに愛されながら、素直に受け入れることが出来ない人の娘キシメ。

『獣の奏者』や『守り人シリーズ』で重厚な和風ファンタジーを生み出してきた上橋菜穂子が、初期に描いた人と神の物語。



『月の輝く夜に/ざ・ちえんじ!』

氷室冴子／著 集英社 YF1ヒム

表題作『ざ・ちえんじ』は男勝りの姫君と内気な若君が、姫と若君の立場を取り換えて成長していく、という古典『とりかえばや物語』を氷室冴子がライトノベル風にアレンジ。二人のその後はどうなるのか！他、氷室冴子の代表作も一緒に

お楽しみください。

『うた恋い。超訳百人一首』

杉田圭／著 渡部泰明／監修

メディアファクトリー 911.147

百人一首といえば、かるたでおなじみですが、あの31文字の和歌には、平安貴族たちの恋と生きざまが詰まっているのです。

そんな物語をマンガやショートショートでわかりやすくドラマチックに超訳した1冊！



『かぎろひさやか』全3巻

深山くのえ／著 小学館 YF1ミヤ

舞台は奈良の都。平城京の後宮で薬師として暮らす真那は、怪我をした一人の青年を助ける。八尋と名乗るその青年と再会した真那は、次第に打ち解けていくが、後宮である日事件が起こって…。

天平時代のラブストーリー。

『だから拙者は負けました。』

本郷和人／監修 宝島社 Y210.04

歴史は勝者が紡ぐもの。勝者の華々しい活躍の陰で散っていった敗者たちにスポットを当て、わかりやすくその失敗の歴史を解説する、歴史エンタメ本。日本史の授業がちょっと面白くなるかも。

『杜ノ国の神隠し』

円堂豆子／著 講談社 F1エン

母が亡くなり天涯孤独になってしまった真織は、母の葬儀の日に光に誘われ不思議な森へと足を踏み入れる。たどり着いた先は日本の古代のようだけれど、神々が生きる世界だった。

新たな世界で人や神と出会う真織の旅が始まる。



『ラノベ古事記』

小野寺優／[訳]著 KADOKAWA Y913.2

古事記といえば、日本書紀と並ぶ最古の歴史書ですが、その内容かというと、なんだかちょっと難しそう…。

しかし個性的な神様や、とんでもない物語に「これって萌える!？」と気が付いた著者がラノベ風に古事記を成立から物語まで書いてしまったのがこの本。

さあ、あなたは古事記の世界に萌えるでしょうか！